

「北海道 ひとり山旅」

(1633) T/U

以前から北海道の山旅をしたいと念願していたが、資金や体力のこともあって躊躇していた。ブログ友のP氏が新潟の山に来られたので数日間行動を共にし、車泊自炊の遠征山旅を学んだ。300名山を達成したT/T氏から「こんなに健康なんだから行ける」と激励された。会員のF/T氏が43日の「四国遍路ひとり歩き旅」をされたのも刺激になった。行くなら「今でしょう！」と決意し、何日も前から準備を進め、7月1日出発、1ヶ月の遠征と決めた。

7月	曜	天気	行き先	百名山	宿泊	寸評
1日	火	晴れ	日本海フェリー		船内	10時半出港し、翌4時半小樽港に着く
2日	水	曇り	ニセコリゾート		真狩登山口	足慣らしで登る
3日	木	曇晴	羊蹄山	88座目	道の駅280ルツ	往復10時間、ガスを突き抜けると雲海
4日	金	曇晴	有珠山		道の駅マオの丘	洞爺湖、昭和新山も見物
5日	土	晴れ	富良野		望岳台登山口	厚田を回り、富良野でラベンダー畑を見物
6日	日	晴れ	十勝岳	89座目	道の駅旭川	快晴で360度の大展望
7日	月	晴れ	利尻島		1-スルスル	稚内港の無料駐車場に預け、渡島
8日	火	晴曇	利尻山	90座目	1-スルスル	頂上はガスで展望なし
9日	水	晴曇	礼文島		道の駅稚内	観光バスで島巡り、寒さで風邪をひく
10日	木	曇り	宗谷岬		道の駅カマ湖	オホーツク沿岸をひた走る
11日	金	曇晴	羅臼		道の駅うとろツエツ	天気やヒグマが心配で停滞
12日	土	晴れ	温泉		道の駅パハラツツ	風邪を治すため温泉休養
13日	日	曇り	斜里岳	91座目	道の駅パハラツツ	頂上はガスで展望なし
14日	月	晴れ	知床五湖		道の駅うとろツエツ	知床五湖ほか見物と停滞
15日	火	晴れ			木下小屋	駐車場確保不安の為、登山口で前泊
16日	水	晴れ	羅臼岳	92座目	道の駅らうす	晴天で展望よく国後島も遠望
17日	木	曇晴	釧路湿原		道の駅摩周温泉	釧路湿原を通り
18日	金	晴れ	観光		野中温泉駐車場	大鵬記念館、摩周湖、屈斜路湖を見物
19日	土	曇雨	雌阿寒岳	93座目	層雲峡駐車場	頂上はガスで展望なし、阿寒湖見物
20日	日	晴れ	黒岳・北海岳		層雲峡駐車場	大雪山系の大展望と花に癒されて
21日	月	晴れ			銀泉台駐車場	ガス欠寸前でGS探し
22日	火	晴れ	赤岳・白雲岳		道の駅とうま	大雪山系の大展望と花に癒されて
23日	水	雨曇	旭山動物園		道の駅びえい丘くら	雨で期待はずれ
24日	木	晴れ	豊糠山荘		道の駅ラブレッドロード	幌尻山荘予約できず、新冠ルートに挑戦
25日	金	曇り	林道歩き		ホツリ山荘	オフロード1時間、林道5時間歩き
26日	土	曇り	幌尻岳	94座目	ホツリ山荘	最難関を諦めずに登れてよかった
27日	日	雨曇	林道歩き		うぐいすの森公園	林道終点で豪雨
28日	月	晴れ	アポイ岳		襟裳岬駐車場	快晴で展望良好
29日	火	晴れ	新冠牧場		樽前荘駐車場	競走馬放牧を見物、支笏湖畔で車泊
30日	水	晴れ	樽前・藻岩山		船内	大倉山や宮ノ森ジャンプ場で練習を見物
31日	木	晴れ	日本海フェリー			15時半新潟港に着く

29日間で百名山7座を含む14の山を歩き、

30万歩、3500km走行、20万円余の費用だった。



羊蹄山、正式名は後方羊蹄山（しりべしやま）は洞爺湖の北に立ち蝦夷富士とも呼ばれている。小樽から真狩登山口に着いたのは8時少し前、ガスが懸かって見えないので、翌日早朝に登ることにし、初日は足慣らしの為、ニセコアンヌプリに登った。羊蹄山は休憩も入れ往復10時間のロングコースでも、合目標識に励まされて順調に歩けたが、8合目からが長く、頂上は12合目位に思えた。映像は下山後写したもので、終日待ったが雲が切れることはなかった。



富良野のファーム富田のラベンダー畑が有名

観客は東南アジア系が半分以上なのに驚いた。白人は1割にも満たない、日本人は3割以下

美瑛などにも綺麗なラベンダー畑が多く見られた。



快晴の十勝岳から、手前美瑛岳、右にトムラウシ、左に大雪山旭岳が見え、これらを縦走する人もいたようだ。

反対側の花の富良野岳も綺麗で、魅力的な縦走路となっている。

この写っている人が私のブログを見て、訪問して下さい、メールの交換をするようになった。



稚内から利尻島への船便から島全体が山となっていて、登頂意欲をそそられる。

どこに泊まろうか思案していたら、羊蹄山の温泉で会った人が利尻のガイドさんで、ユースホステルを紹介してくれた。

港に迎えに来てくれたり、翌朝登山口まで送って頂いたが、下山後は自力で歩かなければならず、夕飯を調達しながらの車道歩き1時間は疲れた。



8合目の長官山までは順調に登ったが、最後は急登の上、登山者急増で登山道の崩壊が進みザレいて登り難い。

この山特有のボタンキンバイは見られたが、リシリヒナゲシは崖に僅かしか咲いていないらしく見られなかったのは残念。

登頂時はガスがかかって展望は利かなかった。頂上で新潟のトラマスのツアーに遭遇し、菩提寺山などの話ができて懐かしかった。



日本の最北端は礼文島のスコトン岬ではなく、宗谷岬である。

宗谷岬の碑に立つ筆者

ここからオホーツク海岸、サロマ湖、網走を走って知床、羅臼へ

流氷やホエールウオッチを見れたら良かったのだが、時期が違うのでしょうか。



羅臼岳頂上から国後島を遠望する。

羅臼岳はヒグマの巣窟と言われ、かなり心配したが、出合わさなくて良かった。

フードデポが多く置かれているが、ヒグマが人間の食料を得ることで、人間に馴れ近付くようになることから守るようにしている。

羅臼平までは順調で、楽かと思っただが、最後の岩場登りはバテてキツかった。そこでの赤いエゾノツガザクラやチングルマのお花畑には癒された。



層雲峡から黒岳～北海岳、銀泉台から赤岳～白雲岳に登ると、大雪山系の山々が連なり、日本一のお花畑が出迎えてくれる。

快晴の大雪山系は正に天上の楽園だ！

是非また訪れて、白雲小屋などに泊まって縦走したいものである。



北海道遠征中、ズーっと気になっていたのが最難関の幌尻岳、豊糠から渡渉する幌尻山荘は予約が必要だが、悪天等で増水すると通行禁止になってしまう。前日申し込んだら、山荘が満杯で断られた。新冠から5時間の林道歩きしか道はない。ヒグマの糞がゴロゴロあるという難ルートだ。

新冠の道の駅で一緒に行く人が見つかり、車道1時間とダート1時間を走り、2ヶ所の要塞ゲートをくぐり、5時間の林道を歩く。



1日かけて辿り着いたポロシリ山荘、車は通行禁止だが、トイレを新設にきた行政の車があり、私が初使用。

翌早朝登山開始、藪や急登と格闘すること4時間半、ようやく登頂を果たす。

水が少ない時の豊糠・振内（額平川）コースよりこちらの方がキツイだろうが、額平コースは予約が取れない、増水で通行禁止になったりして、何回も行けない人がいるようだ。



幌尻山頂から見るカムイエクウチカウシ（通称：カムエク 200名山）は更に厳しい山だという

13時までに山荘に戻ってくれば、明るいうちに林道を歩けるか、雨も降っているので無理せず、もう一泊する。

3日目に林道を下り11時前にゲートに、13時に新冠に戻ることができ幌尻岳を制覇できたことに、ふつと嬉しさが込み上げてきた。



競馬はやらないが、新冠でサラブレッドを見たいと思い、牧場を訪ねてみる。

牧場数の多いのにビックリした。

トウショウボーイ記念館で、馬の一生のビデオを見て、大変感動した。

牛やポニーなども放牧されていた。



花の名山が多い北海道

コマクサ、ハイオトギリ、イワブクロのほか

ゴゼンタチバナ、ウコンウツギ、チシマフウロ、マイズルソウ、アカモノ、タニウツギ、イワヒゲ、ハクサンチドリ、エゾカンゾウ、エゾシオガマ、イワハゼ、コケモモ、キバナシャクナゲ、ミヤマキンバイ、イワギキョウ、シラネアオイ、シコタンハコベ、イチリンソウ、ミツバオウレン、クモマユキノシタ、イブキトラノオ、ボタンキンバイ、ハマナス、ミヤマオダマキ、サンカヨウ、タケシマラン、エゾレイジンソウ、ミヤマナデシコ、コオニユリ、チシマクモマグサ、メアカンフスマ



日本一のお花畑と言われる大雪山系 花が「点」ではなく「面」で咲いている

チングルマ、エゾノツガザクラ、ミヤマキンポウゲ、エゾツツジ、エゾコザクラ、アオノツガザクラ、ヨツバシオガマ、ミネズオウ、コメバツガザクラ、キバナシャクナゲ、チシマツガザクラ、チシマヒョウタンボク、チシマアザミ、チシマクモマグサ、クモマユキノシタ、イワヒゲ、コケモモ、ハクサンイチゲ、エゾタカノツメグサ、ウメバチソウ、ミヤマカラマツ、タカントウチソウ、エゾシモツケ、ヒメイソツツジ、ミヤマリンドウ、チシマキンレイカ



行く先々、道の駅、キャンプ場などでキャンピングカー、ワンボックスカー、普通車、バイク、自転車、歩きなどの旅行者と大勢出会う。

北海道は梅雨がない、湿気が低い、台風は弱くなるなど過ごし易いので、避暑に来る人が多い。都市部を除き、渋滞がなく、道路も直線で走り易い。但し速度規制は厳しく、50km制限が多い。

目的は、ドライブ、観光地巡り、グルメ、写真、キャンプ、釣り、ゴルフ、サイクリング、ランニング、ウォーキング、パターゴルフなど様々だが、山登りは少数派だ。

私は殆ど車泊自炊を原則としていたが、コンビニ弁当が多く、食堂に入ることもあった。魅力は①宿泊費を節約できる。②目的地で泊まり、早朝から活動すれば、1日を有効に使える。③宿泊施設の食事時間、チェックイン・アウトに拘束されず、柔軟にスケジュールが組める。



旅の魅力の一つに、一期一会の人との出逢いがある。

山歩きで道連れになったり、自炊で料理を交換したり、いろいろな話が聞け、触発し合えた。

風邪は引いたが、心配した持病も出ず、自分の健康や体力に自信も持てた。

この成功を自信に、鳳凰山（95座目）、塩見岳（96座目）、空木岳（97座目）、聖・光岳（98・99座目）を車泊自炊で達成することができ、深田久弥終焉の地、茅ヶ岳の登山口も行ってこれた。

100座目の屋久島・宮之浦岳を目指すにも、光岳下山中に膝を捻挫し、訓練不足を心配したが、ニリンソウさんから「案ずるは何とかで、登山口に辿り着けば自然と足が出るでしょう。今迄のキャリア、積んできたのですから～」の激励が心強かった。天気予報で5日連続の晴天日を選び、特急自由席、夜行バス、ジェットホイル、路線バスを乗り継ぎ、旅館やタクシーを使わず、バス2泊、避難小屋2泊の4泊5日することにより完登することができた。

おまけに近代登山発祥の山、憧れの200名山、六甲山にもP氏の案内で登ることができた。

後で思い返すほどに、楽しかった遠征山旅が蘇ってきて、行ってよかったと思っている。

詳しくは、

リンク集の「亀の内ちゃん」<http://blogs.yahoo.co.jp/taka03dream> を参照して下さい。